

### 3 「リーダー研修」について

#### 1 背景

- 教員の育成指標に基づきキャリアステージに応じた研修内容など新たな体系を構築するとともに、教員の多忙化改善の中で質の高い研修を工夫する必要がある。
- 教員の高齢化が進む状況においては、40代から50代の教員が積極的に学校運営に参画し、若手教員の目指す教員像を身近で示すことが期待される。
- 学校教育を問い直し、自らの教員としての使命を再認識することを通じて、教育課題に対する広い視野と学校運営に対する意欲を持ったリーダーの育成が期待される。
- 平成30年度に実施したリーダー研修は次の通り。

必修研修・・・「新教務主任研修会」「生徒指導主事・主任研修会」「中高特 新学年主任・新学部主事研修会」  
選択研修・・・「キャリア教育」「学校運営－教育課程」「学校運営－連携・協働」「学校運営－学校安全」  
「教務の仕事について」「生徒指導の仕事について」「校内リーダーと学年運営について」

- 必修研修は毎年実施し、選択研修は次の選択研修A、Bを隔年で実施する。
  - ・選択研修A・・・「教職としての専門性」に関わる研修（平成30年度の内容）
  - ・選択研修B・・・「教職としての素養」に関わる研修

#### 2 選択研修Bの対象者

- 小学校・中学校・高校の40代から50代の教諭を対象とし、概ね〇〇名程度とする。
- 希望者（校長会等を利用して研修の趣旨を説明し、校長から働きかけてもらう）

#### 3 選択研修Bの概要

- 学校教育の目的について考える内容
  - ・「教育は、人格の完成を目指し、・・・行われなければならない」
- 教員の使命と職責について考える内容
  - ・「・・・学校の教員は、自己の崇高な使命を深く自覚し、絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努めなければならない」
- 大学生や高校生に教職の魅力を発信する取り組み等を通じて教員としての自己の使命を再確認する内容
  - ・「教職と人生について考える」
  - ・フォーラム「山梨県で学校の先生になろう！」の企画・運営

#### 4 成果の普及

- 受講者・・・研修のまとめとしてレポートを提出
- 事務局・・・研修の概要を「センターだより(臨増)」として全教員に配付

# やまなし教員育成指標一覧表

ステージ		採用時	全ステージ
教職としての素養	と社会人	法令遵守	法令を遵守する態度を身につけ、協働的に物事を進めようとしている。
		自立	高い倫理観を持ち、法令を遵守している。
		協働・創造	豊かな人間性と深い教養を持ち、自立している。
	教員として	使命感・責任感	優れたコミュニケーション能力を持ち、周囲と協働して新たな価値を創り出している。
		教育的愛情	教育公務員としての崇高な使命と責任感を持って教育にあたっている。
		意欲	児童生徒一人一人に愛情をもち、未来の山梨を担う人材を育成している。
研究能力	時代の変化に対応し、自らの資質能力・実践力を向上させようとしている。		
		継続的かつ積極的に授業研究を行い、児童生徒に深い学びを提供している。	

ステージ	採用時	第1ステージ	第2ステージ	第3ステージ		
		実践力養成期	専門性充実期・協働力養成期	指導力・協働力完成期		
ステージのあるべき姿	教育に対する情熱と使命感を有し、今日の教育的課題を積極的にとらえようとしている	実践力を磨き、教員としての基礎を築いている	専門性を高め、ミドルリーダーとして組織を活性化している	豊富な経験と広い視野から総合的な指導力・協働力を発揮し、積極的に学校運営を支えている		
教職としての専門性	学習指導	学習指導要領の内容を把握し、学校と社会とのつながりの重要性を理解している。	「やまなしスタンダード」に基づいた授業を実施し、自己の授業を振り返り、改善している。	「主体的・対話的で深い学び」の授業を展開し、適切な評価を行っている。	学びに向かう力の育成や人間性を涵養する授業の実践において、指導的役割を果たしている。	
	生徒指導	学級経営		集団の変容に気づくとともに、一貫した指導をしている。	集団の課題を明確にし、それを同僚と共有し、協働して解決を図っている。	学校全体の視点からの学級づくりを行い、教師集団の中で指導力を発揮している。
		児童生徒理解	各発達段階における心理的特性を把握し、生徒指導の重要性を理解している。	日々の声かけや面談により、児童生徒の気持ちに寄り添った指導をしている。	きめ細かな観察や励まし、カウンセリングの技法等を用いて、児童生徒の意欲を高めている。	児童生徒一人一人の生き方を考えさせる指導等について、校内をリードしている。
		道徳性の涵養		児童生徒の発達段階に応じて、道徳性を高める指導をしている。	道徳性の高まりや変容を適切に見取り、同僚と共有し、指導に生かしている。	学校教育全般にわたって、児童生徒の道徳性を高める指導を展開する推進役となっている。
	キャリア教育	社会の動向に関心を持ち、キャリア教育の重要性を理解している。	体験活動等を有効に活用し、職業やキャリアプランを考えさせる指導を行っている。	キャリアプランの実現に向けた指導を同僚と協働して行っている。	学校全体のキャリア教育が、組織的に推進されるよう、指導的役割を発揮している。	
	特別支援教育	特別支援教育に関する基礎的な知識を身につけ、重要性を理解している。	児童生徒の学習上・生活上の困難さの実態をとらえ、個別の支援をしている。	特別支援教育に関する専門性を高め、関係諸機関と連携・協働し、効果的な指導をしている。	校内支援体制の充実や合理的配慮の提供に指導力を発揮している。	
	学校運営	教育課程		学校の教育目標と編成された教育課程を理解し、実施している。	学校の教育目標達成に向け、カリキュラム・マネジメントに基づき、教育課程を実施している。	「開かれた教育課程」の編成に参画している。
		連携・協働	学校運営における今日の課題を把握し、学校運営の重要性を理解している。	同僚や保護者等と望ましい信頼関係を構築し、課題に対応している。	関係諸機関と連携・協働し、課題解決に向け取り組んでいる。	連携・協働による課題解決をリードし、学校運営の改善に参画している。
		研修		自己の課題を認識し、必要な研修に主体的に励んでいる。	研修内容や成果を同僚と共有し、児童生徒に還元している。	研修の成果を学校教育活動・運営に生かし、組織をより良く運営させている。
		学校安全		いじめ防止基本方針や危機管理マニュアル等を理解し、学校安全に取り組んでいる。	方針やマニュアル等に基づいた取組を推進し、その改善に努めている。	学校安全に精通し、方針やマニュアル等の改善を推進している。
	新たな教育課題の推進	グローバル化への対応		ふるさと山梨を深く理解し、地球的視野に立って主体的に行動する児童生徒を育成している。		
		ICT活用能力	新たな教育課題について関心を持ち、最新の知識を収集している。		ICTを活用して、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業を展開している。	
		情報モラル			情報モラルを身につけ、情報を有効に活用できる児童生徒を育成している。	

※ 第1ステージは採用から5年目まで、第2ステージは採用6年目～40代半ばまで、第3ステージは40代半ば～60歳までをイメージしている。

※ 黄色の箇所は、各ステージにおいて、特に重点を置いてほしい項目と内容を示している。